

地域資源で経済循環システムを構築

花巻市地域エコシステム構築事業 富士大学が主導

富士大学（花巻市）は、令和元年に林野庁補助事業「花巻市および周辺地域内エコシステム構築事業」を提案し、花巻市及び周辺地域において、地域資源を活

用した地域経済の循環システム構築を目指している。同大学が中心となり、地域の関係者による協議会（座長・岡田秀二学長）を立ち上げ、3年間にわたって、

森林資源を地域内で持続的に循環させる仕組みづくり構築に向けて検討、協議し、FS調査（実現可能性調査）を行っている。

地域内エコシステムとは、集落・市町村レベルの小規模な木質エネルギーの熱利用や熱電併給によって、森林資源を地域内で持続的に活用し、山村地域の活性化を実現しようという取組で、①集落が主たる対象、②地域関係者からなる協議会が主体、③地域への還元利益を最大限確保、④効率の高いエネルギー利用、⑤FIT事業は想定しないという考え方に立つ。

花巻市及び周辺地域では、地域森林資源や多様な木材加工施設、燃料用チップの供給インフラ等も整備されている。さらに、本事業では、高速道路管理伐採木の活用、社会福祉法人悠和会

の特養ホーム「銀河の里」サイトでの原料集積・チップ化も加わり、未利用材利用の仕組も整備されてきた。16日に行われた今年度第2回協議会では、事務局の遠藤元治教授が、実証試験の中

間報告、事業の近況報告、新規熱需要調査等について説明、協議し、銀河の里と花巻市大迫支所のボイラーへの本格的なチップ供給に向けた移動式チップの試験や高速道路管理伐採木の乾燥試験等について報告した。

今後、銀河の里の特養ホーム（50kW）とデイサービス棟（50kW）、大迫支所（200kW）へのチップ供給に加え、令和4年度には富士大学学生寮（130kW）ボイラー導入が計画されている。また、新規熱需要調査では、特別養護老人ホームの熱供給ボイラー2基の導入可能性について報告した。

岡田座長は「山村地域崩壊の危機を前に地域循環型エネルギーには重要な意味がある。この地域から東北が変わることを念じており、協力願いたい」と述べた。